

こんにちは ふくま健治です

活動報告ニュース
2020年9月号

第3回定例会一般質問

9月08日(火)、一般質問初日5番目に質問をおこないました。新型コロナウイルス感染症対策、消費税について、風力発電事業について、執行部の姿勢をたずねました。



(再質問する福間)

新型コロナPCR等検査の拡充を

福間議員—(1) 感染震源地を明確にし、網羅的PCR等検査。(2) 地域感染情報の住民への開示。(3) 集団感染リスクが高い施設のPCR等検査強化。(4) 陽性者を、隔離・保護・治療する体制強化。(5) 医療機関への支援について執行部の見解を求めました。

福祉保健部長—(1・2)「接触者の把握・感染症蔓延させないため必要に情報を公表している。医療機関などで集団感染発生した場合は、濃厚接触者に限らず、施設職員・入院入所者など多くの感染の可能性のある方にPCR等検査を実施し、感染防止に努めている」(3)「個人情報に最新の注意を払いながら、必要に応じて、施設名、蔓延防止に必要な発生状況等に関する情報を公表している」(4)「宿泊療養施設700室、感染者用病床330床、現在入院患者は14名」(5)「国の新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金交付事業の申請を積極的申請を周知している。診療・防護に必要なN95マスク・ガウンなど医療物資など、安全な医療体制維持のため引き続き確保につとめていく」と答弁。



(壇上で初回質問する福間)

施設名、蔓延防止に必要な発生状況等に関する情報を公表している」(4)「宿泊療養施設700室、感染者用病床330床、現在入院患者は14名」(5)「国の新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金交付事業の申請を積極的申請を周知している。診療・防護に必要なN95マスク・ガウンなど医療物資など、安全な医療体制維持のため引き続き確保につとめていく」と答弁。

福間議員—感染の現状は、新規感染者数は「減少傾向だが収束に向かっていない」「医療現場はひっ迫状況にある」。「感染拡大を抑え込むか、それとも感染の再燃を繰り返す悪循環に陥るかの重大な分かれ道に立っている」と指摘し、PCRの網羅的な検査、病院の減収補てんには「臨時交付金」のさらなる増額も緊急課題。国の第二次補正の10兆円の予備費は、一部ワクチン接種への支援ときいているが、まずはPCRの網羅的な検査、病院の減収補てんについて活用することも重要課題。早期に臨時国会を開いて、補正予算を審議することを強く要求しました。

消費税減税、課税免除拡大を

福間議員—コロナで痛めつけられている雇用や営業への支援を抜本的に強化するとともに、経済の立て直しに消費税減税を含めて思い切った対策を実施することが不可欠として、①新型コロナが再び感染拡大をしている時、世界の国々で消費税(付加価値税)減税に踏み切っていることにも学び、消費税率の5%への引き下げを決断すること。②現在課税売上高1000万円以下は課税免除となっていますが、年3000万円以下の事業者も課税免除の対象とすること。



(再々質問する福間)

財務部長—①本年7月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2020」において、税制調査会の答

申を踏まえ、持続的な経済成長の維持・促進するとともに経済成長を阻害しない安定的な税収基盤の構築する観点から、引き続き税体系全般にわたる見直し等を進める。②消費税の事業者免税点は6割強の事業者が免税対象者、「益税」の公平性が損なわれる、免税点水準が諸外国に比べ極めて高いから改正されたと認識している。2点は今後の国の動向を注視する

福間議員—消費税は赤字の事業者にも容赦なく課税される。営業破壊税そのもの、税制の基本原則である累進課税に反する、年間3千万円以下の非課税の事業者には消費税の減免制度創設するよう強く要求しました。

→ → → 裏面に続きます。